

## オレゴン州：小麦作柄と気象状況

2005年6月28日及び7月5日

### 2005年6月26日及び7月3日現在の概況：

6月26日に終わる週も引き続き気温は平年を上回った。Willamette盆地での最高気温は79～84度であり、平均気温は平年を1～5度F上回った。NC地区でも同様に平均気温は平年を2～3度F上回り最高気温は89～96度Fと成った。降雨はWillamette盆地で平均0.30インチほどであった。Morrow郡では時々気温が下がる日があり、小麦の澱粉蓄積に適した気象であった。冬小麦の品種“Tubbs”及び“ORCF-101”の作柄が極めて良好と報告された。Sherman郡では週の中頃に0.67インチの降水を記録した。土壌の薄い乾燥地帯では独立記念日直後から冬小麦の収穫開始が予想された。春小麦は6月26日現在83%が出穂した。多少昨年より早い進捗であった。

7月3日に終わる週の気象は、Willamette盆地では平年以上の気温と驟雨の有る気象であった。NC地区では平均気温は平年を3～5度F下回り降雨は少なくPendletonにて0.18インチを記録した。1週間の州平均農作業稼働日数は6.5日(前週：6.5日)であった。NC地区では強風の日が多々有り休耕地の表土が飛散した。土壌水分は6月初旬より減少したが、概ね良好な状態が保たれた。冬小麦はMorrow、Sherman、Wasco郡の土壌水分の少ない地区から開始され、全体の7%にて完了した。単位終了の発表は未だ無かった。春小麦は84%が出穂した(昨年：80%、5年平均：95%)。昨年より多少早いですが平年より遅い生殖成長であった。冬小麦の作柄は多少落ちたが、春小麦の作柄は改善した。

7月1日付けUSDA発表の冬小麦の生産予想では、単位収量は6月1日付け発表の58.0 bushels/acreより3 bu/ac多い昨年実績と同じ61.0 bu/acとなった。春小麦の生産量では、単位収量は昨年実績より良く57.0 bu/ac(昨年：48.0 bu/ac)であった。6月からの降雨により土壌水分が改善された事、急激な温度上昇が無かったことがプラス要因となった。詳細は別表の通り。

### 土壌水分：7月3日現在

	Very short	Short	Adequate	Surplus
Topsoil (%)	2	21	69	8
Subsoil (%)	3	26	70	1

### 小麦生育状況：7月3日現在

	This Week	Last Week	Last Year	5-Year Ave.
Spring wheat Headed (%)	84	83	80	95
Harvested (%)	7	0	0	1
Winter wheat Harvested (%)	7	0	0	1

次ページ：

小麦の作柄状況：7月3日現在

	Very Poor	Poor	Fair	Good	Excellent
Winter Wheat					
This week (%)	1	6	34	53	6
Last week (%)	0	12	23	55	10
Spring Wheat					
This Week (%)	5	13	26	48	8
Last Week (%)	14	22	22	36	6

Source: Oregon Agricultural Statistics Services

7月1日付けUSDA発表冬小麦の生産量予想：

State	Harvested Area 1,000 Acres		Yield Bushels/acre			Production 1,000 Bushels	
	2004	2005	2004	2005		2004	2005
				June 1	July 1		
OR	780	840	61.0	58.0	61.0	47,580	51,240
USA	34,462	34,271	43.5	44.1	44.5	1,499,434	1,525,302

7月1日付けUSDA春小麦生産量予想：

State	Harvested Area 1,000 acres		Yield Bushels/acre			Production 1,000 bushels	
	2004	2005	2004	2005		2004	2005
				June 1	July 1		
OR	175	125	48.0	-	57.0	8,400	7,125
State	13,174	13,637	43.2	-	43.2	568,918	588,740

この作柄・気象レポートに関してのご質問は下記にお願い致します。

小川正晃：<mailto:ogawa.max@omicnet.com>